

大阪錦繪新聞

第三十八号



去歳の三月十九日、第四大区十二小區、曾根崎橋より出火の時、堂嶋裏通二丁目、永井吉松といふ、篋の宅に音曲せし、龜市といふ、盲人あり、兩人、追火に驚きて、にぞんと思へど、魔とめぐる、狼狽さけとて、かく、龜市思慮をめぐして、貴公へ見へとも、歩行まじど、僕へ走まじと行先見へど、此儘、屋多焼死せん、我ハ貴公と負ふ程は、貴公ハ脊かうらにせじ、して人をとろけて行なへしと、割木と持じ、負あて子に、淺瀬、頼はあを深き智へ、三人集て思案し、文珠の智恵より、二人りより、入りみ成てあやまきこのかまひ、
まご知るるる物

笹木芳瀧述
芳光画

新聞
影版友

大阪錦繪新聞38号 文庫10-8065-11

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

